

## 第5回大野市文化会館あり方検討委員会 議事録

日時：令和6年11月7日（木）19時15分～21時30分

場所：結とびあ3階 305・306号室

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

久しぶりに全員揃っての会議であり、しっかり議論していきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

### 3 議事

#### 協議事項

「文化会館ホール利用団体の聞き取り調査結果について」

第4回のあり方検討委員会において利用者の意見を聞くようにとの意見があったことを受け、今回、利用団体に追加の聞き取り調査を行った。対象は、令和元年度と令和5年度に文化会館のホールを利用した団体である。資料1の左側が令和6年7月の調査内容、右側の太枠内が今回追加調査した内容である。団体の一部は消滅や活動予定なしにより斜線を引いている。

結果として、結とびあを改修した場合に一定数の方が「利用する」「利用する可能性がある」という回答だが、逆に残りの方は「利用しない」「答えられない」などの回答である。

委員長：この資料を基に事務局に確認したいことや委員の皆さんに聞きたいことがあれば発言願いたい。発言の際、皆さんにはいろいろな立場があると思うが、ここは文化会館のあり方を検討する場である。「建てる」「建てない」「代替として提示された案」をベースにするのか、そもそも「整備はいらない」ということも含めて、この資料に「どういった意見があるため自分はこういった案とするのがいい」ということを各委員から話していただくと議論のきっかけになるのでお願いしたい。

委員：確かに財政的な問題があるが、文化施設は若い子達が交流する場を作ってあげるという意味合いや、さまざまな文化の交流の場は後世にもどんどん残すべきものだという観点から必要だと思う。よって、今の結とびあの改修もどこまで求めていくかということをしっかりすりあわせていくことが大切だと考える。しかし、従来の文化会館の位置で「存続」という形が取れなかったのかということも、思い返すと堂々めぐりしてしまうわけだが、今のこの資料に入ってしまうと、これはあくまでも結とびあを改修するのどこまでのレベルまで持っていくことができるかという改修案になってしまうため、自分としてはこれ以上の意見を控えさせていただきたい。

委員：資料では、利用しないという団体が非常に多いが、利用しないということはもう歌や踊りなどを発表しないことと受けとめられる。いろいろな分野で文化に取り組んでいる人が発表しないということは、もうこの種のものは伸びない。ましてそれを見てやってみようとか、それに参加しようとか思う人もいなくなる。「文化会館がなくなったらもう利用しな

い」、「使いにくいし音響も悪いし、もう結とびあでもやらない」となると、せっかく少しずつ芽生えてきたいろいろな文化が全部消えてしまうと思う。金のことを言うとそれはもうキリがないが。結とびあのステージで発表している様子を見たことがあるが、後ろにいる人の顔など全く見えない。あのような階段席がない平坦なところで子どもの発表をしても、どこに自分の子どもがいるか分からない。あの方は非常にやりにくいと思う。

委員：文化会館という施設自体、必要か必要でないかと言われれば、財政さえ問題なければ必要なものである。財政が厳しいと言われたらもう何も言えない。資料は、いろいろな方の聞き取りを丁寧にされているが、中には100%満足しないから使用しないという団体、中には60%なら何とかやろうかという団体など、いろいろな団体があるかと思う。書類だけで言えば、もう「ある」「なし」のマルかバツだけで決めているので、そこまで分からない。やはりそういった中で、利用する方の意見をしっかり整理して、もっと十分に意見を聞いて改修に活かしていくことが大事かと思う。それで予算がどんどん膨らんでいってはいけませんが、ある程度の予算の中で集約を図るということが必要ではないか。10%駄目だから100%バツだという言い方は、余りにもまずいのではないかという気がするし、うちはもう100%求めているのにそうでなければ一切いらぬという考え方なら、一切協議の必要もないということになる。その辺りをもう少し詰めて、集約したらどうかと思う。個人的にはあるに越したことはないという考えは持っている。財政的に将来のことも、今現在もはっきり分からないので、内部的にもう1回検討してもらえるとありがたいと思う。

委員：自分も文化施設は絶対ほしいと思う一人である。人口も減少するし、子どもたちの数も少なくなる高齢社会において、文化活動をしている一人として、やはり存続していく場、後世に伝えていく場がなくなるのは本当に厳しいし寂しい。どんなに小さくてもいいので、少しでも皆さんが満足できる会場ができることを希望している。この代替案をもう少しお金を出して、複合ではなく文化施設に一本化する方向に持っていけないかと思う。そうすれば、もう少し希望があるものができるような気がする。

委員：代替案で良くしたとしても利用しないという意見がかなりあるのは少し残念である。とはいえ、やはり発表する場は何かしらほしい。みんなが満足できるところまでいかないから「しない」とするのではなく、みんなが満足できないにしても、ある程度満足できるようなところまで何とか持って行って、そこで我慢してもらえないかと思う。本来求めてものには届かないかもしれない。利用しないと答えた人は、そのまま利用しないかもしれないが、せめて代替案の整備内容はやってほしいところだと考えている。

委員：文化施設の必要性というところから言うと、必ず必要だと思っている。特に世の中が殺伐とした時代に、文化というものは子どもも市民も含めて、心の豊かさを育むものだと思う。ちゃんとしたものは作ってあげるべきだし、我々年寄りも長生きして楽しんでいきたいと思っている。文化活動を行っている子どもたちも多いので、できるだけそういった形にしてあげてほしい。この資料は、あくまでも本番だけの話である。やはり普段の練習や活動の場というのも必要だと思う。今、代替案だけの話をすれば、結論的には現文化会館の解体も含めて8億円掛かるかと思うので、ここでの改修はやめた方がいい。もっと違う方向も検討すべきでないかと思う。

委員：この聞き取り調査から言えば、使えない施設を8億円も掛けて作るのはいかがと思う。これだけの人が、このような意見を言ってくれているので、もう改修案は議論する必要性もないのではないかと考えている。自分の意見としては、この改修はとても実行できるものではないので、「あるものを使う」または「補助をもらって市外の施設に行く」というものである。新築などが無理ならば、もうこれしかない。最初から言っているとおり、お金があるならいい文化施設を建ててもらいたい。しかし、先ほどの代替案を利用しないということが発表しないことに繋がるのであれば、それは本当に大問題である。意見を言った上でそもそも論になってしまうが、この調査結果は、昨年第1回会議の資料としてあるべきだった。このあり方検討委員会の趣旨が全くわからない。言い方が悪いが、大野市が政治的判断をこちらに擦りつけているようにしか思えない。1年以上会議をしてきたのに新たな整備を踏みとどまるという発言だったが、それは第1回会議の前から分かっていたことだろう。もう本当にハテナしかないというのが今の気持ちである。この会議のあり方を今一度見直すべきであり、本当にこれが必要ならば続ける必要があるが、この会議は最初から必要なかったのではないかと考えている。

委員：大野市に文化的な施設が必要か不要かと言えば、それはもう必要だと思っている。ただそれは「財政的に許される範囲で」ということが、私たちも市民の一人として考えていかなければならないことである。自分の施設はこども園なので、発表会と市文化祭で年3回は文化会館を使っているが、園の発表会の会場は学びの里「めいりん」で十分である。めいりんは車が多く止められないので文化会館を使っているという理由である。だから、いいものを作るに越したことはないけれども、財政的に非常に厳しい状況であれば、新たに建設するというのはやめたほうがいい。もっと言うと、令和8年に文化会館が使えなくなったら「現在あるものを利用していけばいい」「本当は代替案も整備せずに何もしない」というのが自分の思いである。しかしそれでは寂しいという方がいれば、結とびあを改修して、少しでも文化会館に近づけるような方向も考えられるのではないかとと思うが、その場合に財政的に負担になるものであれば、これはもう意味がないことになる。どのぐらいまでという財政に許される上限の金額を決めて、その範囲内でいろいろな各方面の話を聞いてやってもらうのがいいのではないかと考えている。何回も言うが、文化的施設は1つはあったほうがいい。しかし、それはやはり財政的に許せばという条件であり、今の状況は大変厳しく難しいというものである。

委員：調査結果を見ると、音楽関係団体は、代替案では使わないという意見が多いのかと思う。財政の状況が良ければ皆さんが思うような整備ができるだろうが、今この8億円という代替案ですら、どんどん物資が高騰して人件費も高くなっていく中で、実際に整備する時にはもっとお金が掛かってしまって、これはできない、あれもできないとされてしまう恐れもある。それでもっと使わない人が増えてしまうようであれば、本当に踏みとどまるというか、もう一度原点に立ち戻った方がいいのではないかと気がしている。

委員：今のこの状況からすると、結局、新施設にいくらなら出せるという財政の物差しを先に示してもらったほうが、話が先に進みやすいのかと考えている。出せる金が0円というなら0円で考えていかなければならないし、何億円ならそれで考えるという方が現実的である。あとは、どこかで折衷案的になるのかと思うが、皆さんの意見のとおり、調査結果な

らば、結とびあ多目的ホールにお金を掛けるのはやめたほうがいい。どれくらい改善できるか分からないこともどうせ利用者が100%満足しないということも大体見えていたが、学びの里「めいりん」の施設を少しでも良くしてやれば、少しは満足できるものになるかなと思う。めいりんのステージは結構広いし、見やすいし、ある程度の演目はできるかと思われるので、どうせお金を突っ込むのであればめいりんだと思っている。今後、大改修が必要な部分があるので、そこでどれだけ本腰入れて改修できるかによると思われる。

副委員長：自分は、この会議のために「今の現文化会館の利用状況」「結とびあ多目的ホールの利用状況」それから「学びの里「めいりん」講堂の利用状況」をまとめた資料を作ってきた。実際に今の文化会館がなくなったら、それは結とびあ多目的ホールに入るのか、あるいは、めいりんの講堂で利用できるのかという資料なのでご覧いただきたい。1枚目が令和6年度の文化会館の使用実績である。10月以降の予定は、1か月前にならないと申し込みができないということなのでかなり空いている。しかし、11月まででかなり予定が入っている。これは大きなイベントと、それから練習場にもなっているので、その利用状況も入っている。なお、枠が小さいので全て書き切れていないが、他の団体の予定もある。主に文化団体を中心に書いてある。こういった団体が、令和8年になると「さあどこへ行こうか」という状況になる。2枚目は、今年度の結とびあ多目的ホールの使用状況である。見たとおりかなり予定が入っている。大きな行事が行われる関係もあるが、かなり入っていることが分かる。これ以外として、1枚目の下欄に結とびあ多目的ホールの常時使用団体を書いておいた。ソフトバレー、空手、エスキーテニスの練習、バウンドテニス、それからスポーツダンス、スティックリング、バドミントンの練習などもある。これらは結とびあ入口の看板に書いてある利用予定から書いたものであるが、例えば中学校の部活動で使っている場合はその看板には書いてないので、実際はもっと利用が多いことになる。今、市の提案では、文化会館の利用がそのまま多目的ホールに入るとのことだが、実際に可能なのかという状態である。当然スポーツ団体にも影響があるし、文化活動は一つの行事をするのにリハーサルや後片付けを含めて最低3日は必要である。3枚目は、めいりんの講堂だけの利用状況である。めいりんの講堂は、団体の利用と学校の利用がある。横線が団体、縦線が有終西小学校の予定となっており、ここもかなり予定が入っている。従って、文化会館が令和8年で閉鎖になった場合に、市は結とびあやめいりんの会議室、あるいは平蔵を利用してもらおうということだが、かなり大変である。資料1の調査のとおり、施設を利用しないということは活動できないということである。もし活動するとしても、発表する場がないと活動に力が入らない。熱が入らない。だんだん廃れていく。こういうような状況にしてもいいのか。大野市の文化活動が非常に低調になることを心配している。今、他の委員からは出ていないが、自分としては、現文化会館の耐震補強をぜひ検討していただきたいと思う。勝山市は、非常に安く耐震補強したし、鯖江市文化センターも4年ほど前に9億円で耐震補強しているとネットに出ていた。それから武生市文化センターも耐震補強している。話を聞くと、客席は大分減ったということである。耐震のことは議会でも出て、市は工事費が大体15億円ほどだと答弁していたが、これをなるべく安く仕上げる何らかの方法がないのかと思っている。今の文化会館は上庄の方が設計した。この方は、

福井市の文化会館も設計されたそうだが、東京の文化会館を勉強して設計したということを知っている。大野市ゆかりの方があれだけの立派な文化会館にしたわけなので、これを何とか有効利用する方法を市でも考えていただきたい。今、新築するという事はかなり絶望的な感じがしている。現文化会館は600席ほどあるが、耐震補強により400席に減ったとしても、それは仕方ないかと思う。何とか工夫して耐震補強できるようにしてもらおうと、ここにおられる委員の方はほとんどが「それはいい」という思いを持っていただけるのではないかと。一番の問題はお金だが、やはりこれだけ結とびあを利用しない人が多いという結果が出ている。事務局はいろいろな資料を作って調べてくれたが、これだけ反対が多いことはしっかり考えるべきだと思うし、何とか今ある文化会館の存続を検討願いたい。

委員長 : 今回の協議は、例えば代替案である結とびあの改修を少しでも「する」「しない」というところも含めて、どこまですり合わせるかがひとつの論点になるかということと、今話があった現文化会館を存続するための耐震補強について「そもそも考えなかったのか」「できるのか」「できないのか」というところも論点である。あとは、会議体のあり方が出たが、これは先に話をしておくと、もともと「整備ありきでどうにかする」ということではなく、「文化会館を作るかどうかも含めて議論したい」という話は第1回目にしていて。その中で、ある程度お金を掛けてリサーチした結果、実際は想定よりも高い費用で出てきてしまったところである。この委員会の目的としては、「これで具体的に何を整備する」ということまでは決める必要はないと思っていて、例えば、これが新築もしくは改修で作るといえるときには、このあり方検討委員会の次に基本計画の策定委員会というものがあり、そこから基本設計、実施設計という形になってくるので、この次の会議体で決めることになる。つまりこのあり方検討委員会では「どういう方向性で行きましょう」、「もし新築や増築にするのであれば、どれぐらいの規模でどの場所でやりましょう」というぐらいのところまで決めるつもりだったので、今回新築がなかなか厳しいということであれば、どの辺りで落とせるかということまで話せればよいと思っている。あとは、やはり「お金があれば」という話が皆さんから出ているし、自分もその通りだと思っている。そこで、今、結とびあをベースにどこまでやるかという話になっているが、学びの里「めいりん」やエキサイト広場など他の施設もいくつかあるので、例えば「どういったところを改修する」、また、「改修することだけでなく、備品としてどういうものを整備する」というところでもいいのではないかと思う。その備品を何にするかはこの会議体で決める必要はない。例えば、用途で分けるのであれば、この施設において「演劇だったらこれができる、できない」とか、「音楽のピアノコンサートであればこれができる、できない」というところを大体決めて、その中で必要な整備なり備品なりは、次の会議体で決められるといいと思っている。今あった話の中で文化会館の改修や耐震補強が可能なのかについて、事務局から何か説明はあるか。

事務局 : 現文化会館を改修して存続させることができないかについては、議会でも答弁したが、平成20年に現文化会館の耐震診断を行っており、その結果、5段階ABCDEで一番下のランクであるE判定と診断されている。よって耐震改修を進めることは厳しいことから、その当時「耐震改修はしない」という方向で話が進められた経緯がある。また、当時、コ

ンクリートの劣化度を調べる中性化試験も行っており、コンクリートの中性化が進んでいるという判定が出ている。そこから現在までかなりの期間が経過しているの、状態はさらに悪くなるがあっても良くなることはないと考えている。よって、現文化会館の改修は、市として考えていない。費用として、耐震補強と長寿命化を図る工事費に関しては、新設する場合の約7割の経費が掛かると言われており、市の積算においても、15億円、16億円という経費が掛かるであろうと見込んでいる。そういったことも考慮して、現文化会館は存続できないという考えに至っている。

委員長 : 先ほど他の自治体での耐震工事費がどれぐらいだったという話もあったが、それはそれぞれ建物によって状況が違っていることによる。大野市文化会館の耐震診断が一番下の判定ということは、コンクリートの中性化が進んで剥離する恐れがあることや、物が落ちてきて事故に繋がるという点で厳しい状況であるということが考えられる。

事務局 : 先ほどの勝山市の話について事務局でも確認させてもらったところ、勝山市の判定はD判定だったということで、その段階における耐震計画に基づいて施設を改修したものである。勝山市は、当時の耐震診断で簡易的に整備をするだけで使えるという診断結果が出ていたということである。大野市文化会館の診断は、大規模な改修をしないと継続して使うことはできないという結果が出ているので、そこで勝山市との費用に違いが出ている。

委員長 : 先ほど委員から出された文化会館を利用している団体の資料だが、例えば文化会館を使っている大野高校が自分の学校を使うといった選択肢はあるのか。やはり文化会館に来てやるのが大事なのか。今まではそうだったと思うが、このままもし文化会館が使えなくなったときに、他のところでもできるのか、もしくはできないのか。ある程度その活動が担保できるかというところで、事務局に何か考えはあるか。

委員 : 大野高校の吹奏楽部は、定期演奏会をしており、文化会館には4日前ぐらいからリハーサルに入る。高校の音楽室や体育館ではリハーサルができないためである。大野高校だと三部構成で演奏や踊り、劇を行うので4日間必要になる。それと大野市民吹奏楽団も来週の日曜日に演奏会があるが、練習のため今週の日曜日からその日までずっとホールを使うことになる。そうでなければ練習ができない。打楽器を含めた全ての楽器を合わせて練習しないといけない。バラバラに練習して本番一発勝負はできない。文化会館の公演が20回あれば、リハーサルも含めて実際には100何十日かを使っていることになる。準備や練習を含めると日数が必要なため、今の結とぴあの案だと、体育館として使いながらでは「日程が入らない」というのが、この委員から提供のあった資料から見た結果だと思う。

事務局 : 令和5年度の文化会館のホールの利用実績を調査した結果では、例えば、4月に陽明中学校吹奏楽部がコンサートをしているが、利用者は300人であり、めいりんでも調整可能だと考えている。ピアノの発表会も人数が少ないため、めいりんで調整可能である。このように他施設での利用が可能というのは幾つもある。他に津田寛治トークショーがあったが、これは市で主催したものであり、他の施設でも実施可能。大野市民吹奏楽団のファミリーコンサートは、文化会館でしか開催しておらず、これは結とぴあで開催できるかと言われると「日程調整は必要だが開催できる」と判断している。青少年健全育成推進大会は、元々めいりんで開催していたものをコロナの関係で文化会館で実施したものであり、今後は今までどおりめいりんで開催される。20歳のつどいは、文化会館の空調状況を考慮し

て今年度から結とびあで実施すると聞いている。加藤登紀子コンサートも市の事業であり、めいりんなどの別の施設で実施可能である。バレエ発表会があるが、利用者数が350人なので、めいりんでは少し厳しいということで、結とびあでの開催となる。運転者講習会は、人数が100名程度なので、結とびあ多目的ホールではなく305・306号室での対応が可能であると考えている。星空の街・あおぞらの街全国大会は、臨時イベントだったが結とびあ多目的ホールでも可能と考えている。なお、令和5年度の結とびあであれば、木金土曜日の3日連続の予約可能回数が年間で24回、金土日曜日の3日連続予約可能回数が19回あったとカウントしている。また、めいりん講堂の空きも確認したが、めいりんは金曜日の日中が学校で使われているので、金曜の夜から土曜日に掛けてとすると3日連続予約可能回数が21回、土曜日の2日連続予約であれば21回あった。平蔵は金土日曜日の3日連続予約が35回、土曜日の2日連続予約が36回だったことを確認している。結とびあ多目的ホールの予約は、文化活動のイベントであれば6か月前から押さえることができるが、スポーツの練習であれば1か月前から押さえることになる。金土日曜日を文化活動のイベントで押さえた場合、それによってはじき出されるスポーツ練習の団体の行き先として、めいりんの体育館、エキサイト広場、小中学校の体育館などを調べた結果、金土日曜日における全面の空きが、めいりん体育館だと午前13回、午後19回、夜間11回あった。エキサイトだと午前35回、午後15回、夜間38回の空きがあり、小学校ではいくつもの体育館で50回以上の空きがあることを確認している。これをもとに、結とびあ、めいりん、平蔵での文化活動が可能であると考えている。

委員長：文化会館が使えなくなったという前提であれば、今までと同じように豊かに活動するというようなことは少し厳しいかもしれないが、その中でうまくスケジュールを工夫したり時間体を工夫したりしながらやっていくしかないのかなという気もする。皆さんはどう思われるか。

副委員長：平成20年の耐震診断では、「耐震ができない」という結果ではなかった。市が新築するという方針を先に立てていたので、耐震できないのではなく、耐震せずに新築しようという考えだった。だから耐震できないからやめたわけではない。それから事務局が、ここは20日空いている、ここは30日空いているということだが、行事の開催日は、それを実施する人の都合で決めるものであり、空いているからそこに入るというものではない。この日でなければもうできないという日程でその会場を押さえるので、年間に何日空いているからそこに入るというような簡単なものではないということは理解いただきたい。

委員長：先ほどの話で、どこまですり合わせるか、もしくはどこにお金を掛けるかといったところは、今回はあまり議論するつもりはなく、まず、その活動の性格として、つまり結とびあ自体改修しないほうがよいという方もいるし、やはり少しでも何か活動できるのであったらお金を掛けてやったほうがよいという方もいる。めいりんや平蔵を良くするという話もあったが、その中で使い分けとして「めいりんであればこういうことができる」「平蔵であればどういったものが得意である」「結とびあであれば、例えば音楽的には少し厳しいとしてもこういったイベントや文化的な活動はできる」ということがあるかと思うので、皆さんの意見をお聞きしたい。

委員：一概には言えないが、自分の場合は何もない真っさらの状態から音楽のコンサートもやれ

ば、舞踊のステージも作ればということをしてきてるので、逆に言うと何とでもできる。しかし、今回、結とびあに関してはあくまでも体育館であり、スポーツメインの会場であって、扉などの防音性も含めた改修から全てにおいて入らないといけない。おそらく文化施設としての機能は、まず無い状態である。あとは舞台には上手と下手の出入りの裏動線やバックヤードの通路も必要になる。これらの改修までするかどうかは今このあり方検討委員会として詰める部分ではないのかもしれないが、その辺りも念頭に置いて考えていくにあたって、少し迷走している状態である。この結とびあは、音楽性に関しては明らかに欠如してる状態であり、設備を持ち込まないとできない。今の文化会館は、ある程度のものが揃っている状態であり、時間的ロスもなければ日数的、費用的ロスもないという条件を備えている。その辺りを考えると、結とびあに関しては、音楽性、舞踊性に関しては欠如した状態であり、かなりの改修をしないと対応できないかなというのが自分の直感的な意見である。

委員：この9月に全国の巨木フォーラムが結とびあで開催され、自分も参加した。1時半から5時まで折り畳みの椅子にずっと座っていたため、もうお尻が痛くて右に左に動かしていた。全国から来られた人に対してこのような会場で恥ずかしいという思いをしたし、皆さんも座っていることが大変つらかったのではないかと思っている。委員長の問いに対する答えではないが、これは申し上げておきたかった。

委員：やはり、整備に係る費用として9億円までなら大丈夫、10億円までなら大丈夫といったように最高額を決めないと、どのような意見を出しても全く前に進まないと思う。それと使っている人から言わせれば、場所が減ること自体がまず問題だということ。当然、中身の問題も改修方法の問題もあるが、その辺りについて事務局が最高額を示さない段階でどのようなことを言ってもまず決まらない。今は結とびあの1か所だけの話になっているが、この範囲内なら複数箇所を改修するという方法もあろうかと思う。分散するとレベルが落ちるかもしれないが、団体によってはいろいろな場所で使い分けをすればいいわけである。新しく建物を建てて維持費が掛かるということは一切やめようというのが、市の方針だし、やはり今の現状にある中で有効に使おうということが基本にあると思う。この前の財政見通しは、今回初めて出したものだと言われて驚いたが、そんなことがあるわけない。30億円も40億円も掛かる文化会館を計画した段階で、財政見通しも持ってないような団体なんてあるわけがない。その辺りをもっとしっかり示してもらわなければ、我々も押し問答になるだけである。利用団体の調査自体は非常に細かい調査であり、問題点も浮き彫りになっているのだから、もっと詰めていけばある程度の方向性が出るのではないかという気がする。

委員：いくつかある施設に分散するという意見において、予算の中で少しずつでも満足できるように改修できるのであれば、それも一つの案なのだと思う。平蔵なら観客は50人や60人ほどが限度だし、めいりんにしても高齢者は使いにくい。だから、その場面、場面で分けて考えるというのも一つかと思うというものである。複合施設というものは、本当に音楽をする者にとっては難しい。やはりリハーサルの場所や近隣に対する音の大きさの配慮も必要になるし、音楽に携わっている者にとっては、この結とびあの案ではちょっと使いにくい。それならば分散して、集客を100人にするのか、200人、300人とするの

かを選択できる場所があれば、それに使う側も変わっていくのではないかという感じがする。

委員：今の分散する案には自分も賛成である。先ほど、めいりんをもっと活用するといいいのではないかという意見が出たが、それを自分は見落としていた。こういった考えに賛成する。結とびあ多目的ホールの体育館を無理やり音楽もできるようにすることは、やはりかなり無理があるので、めいりんをもう少し音楽の補強をするという方が、分散でうまくいくのかなと感じた。

委員：この委員会は、そもそもが文化会館をどうするかという場である。今意見があったように結とびあ多目的ホールは、名前を多目的ホールとしているだけで100%体育館である。多目的ホールや多目的グラウンドというのは、どっちつかずになるものである。ふれあい公園も多目的グラウンドであり、バックネットも何もないから野球をするときは外へ飛んだらホームランになる。結局そういうことになりかねない。自分の団体は、中学生や高校生と一緒に結の故郷吹奏楽祭をやっている、毎年スケジュールが合わないため、去年は体育館、今年はめいりんを実施した。文化会館は文化祭をしているので使えない。めいりんの講堂は、講演用の講堂である。子どもたちが出番まで横にある袖の通路で待たなければならない。隣の音楽室が使えないので、リハーサルもできない。次の出番の子どもたちが、音を出してリハーサルできず、ステージの出入りがある休憩の時間にステージの上で順番にチューニングしている。中学生の吹奏楽の子どもたちは、休憩時間に客がいるところでハーモニー練習をした。そういった状態の施設を使えというのは酷だと思っている。めいりんを改修するという案も一番最初に土台にあったが、建てるなら改修はやめようという方向になった。文化会館にしても、平成20年の耐震診断後、平成26年の在り方検討委員会は「建てることありき」の委員会だったため、耐震補強しても無駄だから建てましょうということで話が消えた。その時の資料がある。これをもう一度検討してもいいと思う。分散していく案は、大規模改修してくれるのであればいい。多目的ホールという体育館を文化施設にしようとするぐらいお金を掛けるならOKである。ただ、文化会館は取り壊しにもお金が掛かるので、その辺の検討も必要になる。当初から言っているように、この委員会でお金をどうするかというのはおかしい話であり、これは行政と市議会が話をするべきである。どんな文化会館にしようかと検討するのがこの委員会であることを今でも思っている。

委員：今、皆さんの意見を聞くと、本当にそれぞれの得意・不得意を言っているところではないというのが答えである。意見を聞いている限り、今あるものをそのまま使えないのだなと感じた。これだけ職員も頑張って資料を作って繰り返し会議をしている中で、大野市の政治自体を見直さないといけないのではないかと思う。今、建設中のOSORAの運営方法もまだしっかりと決まっていないと伺っているし、施設は本当に必要なのか、何億円も掛けて作っていて当初の予算よりは増えているのではないかとも思う。駐車場有料化の話も全く納得できないし、学校の改築もうまく進んでいないと聞いている。多くの課題があって何もかもが中途半端であり、この文化会館のあり方さえも中途半端にしか検討できていない状態である。そもそも大野市の政治に信頼ができないという感じである。

委員：結とびあ多目的ホールは、初めから多目的ホールであって体育館ではないことを伝えてお

く。あの場所で何か講演しようとするれば講演ができるし、演奏しようとするれば演奏できる。当初、多目的ホールには、プロが演奏する用のピアノがあったのを覚えている。それが証拠に、第九交響楽が演奏されたこともあるし、NHKのど自慢が開催されたこともある。音響が悪いのは確かであり、音楽専用にした施設ではないので、多少使いづらいところはあるが、使って使えない施設ではない。自分としては改修の必要もないと思っている。施設を市で少しでも改修しようということであり、それぞれの団体が自分に合った施設を利用してもらえばいいと思う。それでも専門的な施設がほしいという場合は、市から示されたようにハーモニーホールなどを借りるときに一定の補助をするということだから、それを利用してもらえばいいので、現在、活動しているすべての活動がどこかでやることは可能だろうと思っている。財政的に限られる中で、現状、大野市のそれぞれの団体の活動を継続してできるようにしようということなので、今これを進めていく方法で考えればいいのかと思っている。

委員：代替案の多目的ホールの印象としては、もう体育館でしかない。巨木フォーラムには自分も参加していたので、お尻が痛いのもあったが、やはり音がものすごく響くというか、振動しているというか、とても音響が悪い状態だった。それが今の代替案のお金でしっかりしたものができるのかということも疑問である。めいりんを近い将来に改修しなければならないということであれば、そこである程度お金を積んで、皆さんがある程度納得できるものにしていただければと思う。本当に大きな発表をするときは、市外の施設利用に対する補助を充実した形にさせていただきたいのと、やはり日常的な練習場所が必要だと思うので、文化会館で活動されている皆さんの練習場所が確保できるようにしていただく必要があると思う。

委員：今の流れからして、「文化施設を持たないわけではないが、お金がないからちょっと出してそれなりに小腹を満足させよう」みたいな話なら、めいりんのできる範囲のことをするくらいが妥協点かと思う。新施設を作らないのであれば、結とびあにしてもめいりんにしても、痛みを伴う第一歩、我慢の連続である。皆さんが「いやこうであってほしい」「ああしてほしい」と言われるのであれば、どうやって天文学的數字のお金を積むかは分からないが、新施設を作るしか解決しない。自分も最初は、作るなら50年先も残るような、今の文化会館より立派な施設がいいと突飛なことを言っていたと思う。夢物語を語るのならいいが、それができないということならば、もう既存の施設で何とかするしかない。自分の予想できる範囲で言うと、めいりんのステージで大体のことはできると思うし、できないことがあっても、お金がない大野市であるからもう我慢するしかないと割り切る必要がある。裏方は丸見えだとか、音響がどうか、照明が足りないとかきつといろいろなことが出てくると思うが、大体の演奏会や講演会ならある程度できると思う。めいりんの場合、改修するにしても最大の課題は雨漏りである。ステージの上手側にはほぼ毎日のように大きなバケツが置いてあり、西校の児童は雨が降った次の日は、雨がポタポタと漏れる中で集会をしている状況である。大規模改修が必要であるが、その雨漏りを止められるのかどうかはかなり難しい課題である。雨漏りの問題と、我慢を強いられる発表会という難点はあるが、めいりんならば、市民の愛好家が発表する場としての利用等は可能だと思う。あと、先ほど委員からめいりん講堂の予約状況の資料を見せていただいたが、自分が毎日

いる中で、平日の夜に講堂を使っているのはほぼ見たことがない。多分斜線で講堂を使用不可としてあるのは、音楽室を使用している場合にブッキングを避けるためだと思うが、実際はガラガラである。ただ、土日や時期によっては絶対に行事がかち合うため、希望通りの日に使用できないといったこともあり、お金をかけないならこういった痛みを伴うことになる。

副委員長：自分の希望は、先ほども言った通り、現文化会館を何とか改修して使うことができないか検討してもらいたいということである。今結とびあの施設の整備で5億円、文化会館を解体するのは3億円という金額になっているが、8億円をそこにつぎ込むのであれば、例えば一年目は、文化会館の吊り天井部分だけ直すとか、何年か掛けて他の部分も直すということができないかと思う。ブレースがいろいろ入るといっているのは前の資料でももらっているの、ある程度耐震補強はこうすればよいということはもう出ていて、改めて調査する必要はないのではないかと思う。やはりこれだけいろんな団体が文化会館を利用して活動していることがこの資料を見てもわかると思うが、文化活動を衰退させないためにも、まずは現文化会館の改修を検討してもらいたい。

#### 協議事項

##### 「文化会館あり方検討について」

あり方検討委員会として報告書のまとめに入っていくにあたり、一定の合意形成を図っていくことが大事であると考え、資料2の図を作った。文化活動発表の場検討マトリックスということで、これまで皆さんに協議いただいた内容について対応が可能か否かというのを表にしたものである。左の上から1 2 3 4と縦の形になっているが、まず市に必要な文化活動はどのようなものか、次に財政面、その下、規模・利用面、最後にその他の区分としている。細長い四角の中にはこれまで検討してきた新築増築の4案、代替案、整備しない場合ということで、それぞれの協議内容に対応が可能かどうかの判定を入れている。

1「市に必要な文化活動」は、どのような文化活動を担う施設にするかについて、①②③はどれも実施しなければならないということで、皆さんの議論の中で考えが一致してきた意見だと思われ、どの案についても対応可能としている。

2「財政」は、財政面に対する考え、行政で担えるかについて、ここに書いてある通り費用の問題で非常に厳しく、面積規模を減らすと安くなるのか、また借金を残すのかという意見に対して、可能であるのは「代替案」と「整備しない場合」のみで、新築増築の4案については非常に難しいとの判定を入れている。

この結果、代替案の3「規模」は、施設に求める規模や設備について、例えば、①コンパクトの施設にすると大きなイベント時に客数が限られるという意見があり、赤字が対応策として書いてある。こちら事業費を抑えるにはコンパクト化が必要だが代替案であれば800人が収納可能と考えている。(他の意見と対応策は資料のとおり)

次の4「利用面」に関する考えについて、①多目的ホールを代替施設にするなら体育館利用はやめてほしいという意見に対しては、スポーツ団体との利用調整を考えた結果「可能である」ということで体育館としても利用を継続する。(他の意見と対応策は資料のとおり)

最後に5「その他」について、①委員会でここまで検討してきたが、やはり市民にどうですかとい

うアンケートが必要という意見に対しては、今実際には考えていないが、検討が必要であればということ△としている。以上、文化会館のあり方を検討するにあたっての考え方として、やはり市民の文化活動の発表の場を確保することが大切であるということである。また、事業費等で市財政に過度な負担をかけない、市民に大きな負担をかけないということも大事である。期限として、今の文化会館は令和8年6月に休館を予定しているが、そこからあまり時間をかけずに市民の文化活動を継続するというのも必要であると思っている。あり方検討委員会の一定の合意形成が必要な中で、これらを全体として考えるためにこのマトリックス図を作った。先ほどの調査結果もあり、今後あり方検討報告書をまとめていくにあたって考慮願いたい。

委員長 : この会議の冒頭に話した通り、「細かくこれは整備する、しない」というようなことまではこの会議体で決めるつもりはなく、現在文化会館で行われている活動が「今後どのように活動の場を選択していけるといいか」とか、それに伴い「具体的にこういうものがほしい」ということは、一応、今検討してもらってはいるが、この会議体では決めないほうがいいと思っている。次の会議体もしくは専門家の方に相談しながら決めていてもらいたいと思っている。まず、先ほどの耐震改修ということは除いて、「現文化会館の建て替え」「駅東公園での新築」「結とびあ裏への増築」「図書館への増築」のいわゆる新築については、皆さんの中でも「整備が難しい」という認識でよいか。やはりそれは関係なく建てるべきだという意見があれば発言願いたい。

(意見なし)

委員長 : この4案については「現状、整備が難しい」という認識で一致したと判断させていただく。報告書の形はどのようになるのか、イメージがあれば事務局から説明願う。

事務局 : 報告書の構成としては、これまでのあり方検討の経緯、検討における基本的な考え方、課題、検討してきた整備案、その調査結果、最後に考察・結論という形にすることを考えている。

委員長 : 今まで検討してきたことを載せながら、そこで方向性を示していくことになると思う。先ほどの資料1のところでもいろいろと議論になったが、このまま市提案の結とびあ全ての整備を行うという方向は厳しいと思っている。意見も出たように、例えば、結とびあ多目的ホール、めいりん、平蔵をイベントの内容や規模によって使い分ける方法もある。あと、文化会館の耐震補強を何とかできないかという意見があったが、もう一度事務局から説明があればお願いしたい。

事務局 : 耐震補強については先ほども説明したが、耐震補強だけ行った場合にしても10年程度しかもたないと見込んでいる。今言われているのはすべて改修の場合だと思うが、それをすると16億円程度かかるため、それは新築と同様「今の財政ではとてもできない」という状況である。

委員長 : 結とびあ多目的ホール、めいりん、平蔵の3つの施設以外に、エキサイト広場という名前が挙がったが、そこはやはり体育館だから活用としては厳しいのか。それとも内容によってはうまく使ったりしながら活用できるのか。

事務局 : 使われる方の活動内容によって、ここが最も適しているということであれば、エキサイト広場も含めていただければと思うが、他の施設についても、基本的には現状のままで活

用を想定している。

委員長 : そうすると、例えば、既存施設をうまく使いながら、できればその全部を均等に満遍なく改修するというよりは、何かに強いような施設に少し色を出していくといいのではないかなと思う。やはりお金がないとなかなか議論できないという話もあったが、それは多分いろいろ出していただいている中で、実際に整備をするときには優先順位を決めて、100点は取れなくても80点60点ぐらいであれば、これぐらいの整備でここはできるだろうということ、専門家の意見を聞きながら決めていくのか、このあとの会議体で決めていくのかはわからないが、この会議としては、「既存施設を上手く活用しながら軽微な改修や備品の購入を行う」というような形でまとめていけるといいと思う。何か意見がある方はお願いしたい。

委員 : 先ほど事務局より、耐震に16億円かかるとか、新築の7割掛かるという説明があったが、大雑把な数字ではなく、やはり検討はしてもらわないといけない。今提出された資料2は、「こういう意見があったらこうすればできる」というモグラたたきである。そうではなく、先ほど委員長が言われたように、めいりんもこうしてはどうかという検討の土俵に乗せないといけない。事務局が結とびあ多目的ホール以外は検討の余地がないと言っているようにしか聞こえない。平成26年にもらった耐震補強計画の資料があるが、耐震補強であれば、コンクリートの中が駄目なら注入や補強するなど、今なら補強の方法がたくさんある。先ほどコンクリートの剥離という言葉があったが、それはここには書かれていない。やはり耐震補強も含めてこの委員会で出た意見を同列にして、報告書に入れてもらった方がいいのではないかな。結とびあ多目的ホールの案一本で進まれて、改修したがやはり使えなかったとなると、責任はこの委員会に掛かってくる。委員会として3つぐらいの案を持っていた方がよい。めいりんも最初の検討案には入っていたが、建てる方向だったためその案がなくなっただけである。最初は4つの案で検討していたのに、市長が委員会の意見を無視して「やめる」と発表した。もう我々が言っても市長が言ってしまったのでこれが結論であるが、この委員会としては「3つぐらいの案をどうするか検討した」と報告してもいいと思う。

委員長 : 今3つの既存施設の活用という話をしているが、落とすところとしては、別に3つに限定せずに、既存施設をどのようなお金の掛け方で何ができるかということを経営的に判断しながら、例えば「文化会館でお金が掛からなかったらこれができる」という余地を残すというイメージだろうか。そうすると、今3つとは言わずに、既存施設の改修もしくは備品の導入などで、これまで文化会館で行ってきた活動をなるべく担保するようにしてほしいというところか。文化会館のあり方というよりは、文化会館で行われた機能を担保するためのあり方というように読みかえるしかないかなと思う。

委員 : 今日、委員の皆さんのほとんどの方が、結とびあではなかなか利用しづらいというような話をされていたと思う。なおかつ、これを見ると他のスポーツ団体との調整は可能であるとされているが、実態はそうではない。他のスポーツ団体で週3回練習していたのを週2回にしなければいけないとか、現時点でいろいろな体育館が取り合いになっている。なおかつ、これから中学校のクラブ活動が民間委託されて今までとは体制が変わり、いろいろなスポーツが時間外に体育館を使うようになる。そうすると体育館のスポーツ施設として

の需要がまだまだ増えていくことになる。そんな中で、結とびあを文化施設に変えてしまったら大変なことになる。スポーツ団体が練習も満足できない。ましてや全国大会に行くようなチームまでが練習を減らさざるをえないというようなそういう状況になってくると思う。最終の答申書の中には、そういったことも含めて書かなければならない。今このままだったら、他のスポーツ団体と調整しますから大丈夫ですよとされてしまう。それはやはりおかしい。自分としては、委員のほとんどが「結とびあはなかなか難しいと言って難色を示した」というような表現であればいいと思う。それと、今、話があった現文化会館の改修について、現時点で同じような項目でも金額が変わってくると思うが、どれだけの経費が掛かるのかというものを出示してもらわないといけない。委員会の中でこのような話があったのかどうかが残らない。やはり委員会の中でそういった話があったということで経費についても出していただきたいと思う。

事務局：現文化会館の耐震については先ほど説明したとおりだが、診断結果としては、震度6以上の場合、倒壊などの相当な被害が予想される、補強による対処は困難であると明記されている。こうした診断結果が出ているところであり、現在の文化会館の耐震改修については、市としては考えてはいない。また、文化会館を耐震、それから長寿命化を図っていくとした場合の費用としては、一般的に、新築の場合の7割ということで説明させてもらった。それが16億円程度であることをお伝えしたが、実際に、市としても技師が積算したところ、同程度の約16億5千万円の費用が掛かるという結果であった。なお、長寿命化を図らず、最低限必要な耐震補強、空調改修、特定天井改修を行った場合でも約5億6,000万円の費用が掛かる見込である。ただ、これを行ったとしても、10年程度しか持たないのではないかという見込である。先ほどからも説明しているとおり、診断結果として補強による対処は困難であることが示されていることに対し、市としても「おそらく大丈夫であろう」という形では、市民の方々に安全・安心に使っていただくことができない。そういったことから、改めてとなるが現文化会館を補強して維持していくことは、市として考えていない。

委員長：この現文化会館の維持について、あり方検討報告書に含めないとなかなか納得されない方もいると思うので、例えば「既存施設を上手く活用しながら」というような文言を使って含めてはどうか。委員会としては「既存の施設をうまく使いながら、よりよい文化活動の発表の場が実現できるようにしてほしい」というところで収められるといいのではないかと思う。具体的に施設名を示さずにというものである。一応の方向性としては、逆にこれ以外ないような気もするが、委員から意見があればお願いしたい。

副委員長：市民の方といろいろと話をすると、やはり今の立派な文化会館がなぜ使えないのかという意見が非常に多い。雨漏りが酷いとかあるいは壁が落ちているとかであれば考えなければならぬかもしれないが、この文化会館が使えるのなら、もうそれが一番いいのではないかというものである。文化会館を使っている業者からも、この文化会館を建てたという地元の業者からも話を聞いているが、本当にしっかりと建てた施設なので、まだ十分使えるという意見が耳に入ってくる。やはり既存施設をなるべく有効に使うという方向が、今の状況としては一番いいのではないかと思う。結とびあはいろいろと難しい面もあるし、めいりんも改修が非常に難しいという話を聞いている。教育施設は一段とレベルが高くて、

改修するのは非常に難しいというような話も聞いている。この現文化会館の耐震補強については、やはりこういった意見が出たということを経済報告書の中に入れてほしい。署名活動をした結果、8千人の方が新築してほしいという署名だった。今、新築が非常に厳しいという話は分かるが、文化会館は残さなければならないという市民の声である。その市民の声を吸い上げるのが行政の仕事である。例えば、新築で22億円のところ、仮に耐震補強で15億円の経費を落としたとしても、これさえ難しいと言われると、最初新築と言っていたのはどういうことだったのか、最初に市長が言ったことはなんだったのかと思ってしまう。周りのいろいろな人に聞くと、大野市は財政的に非常に良い、過疎債が使えるので他市と比べて非常に有利である、ということも聞いている。だから、市がやるかやらないか、最終的にはそういうことなのかと感じている。

委員長 : 二人の委員から意見が出たので、その報告書の書き方については事務局と相談して決めていけたらと思う。

事務局 : 耐震については、我々も調べたが補強困難ということであった。立派な良い施設と言ってもらえるのはいいのだが、一方ではあの施設は大丈夫なのかと言う声も聞いている。そういったまわりの感情の声を聞くのではなく、調査により危険であるとの判定が出ていることから、行政としてそういった判定が出た以上はその担保がなければできないということをご理解いただきたい。我々は既存施設の活用ということで結びあの整備案を出させてもらった。それに対して、利用者からは率直に利用しないという意見もあった。それについてはここで皆さんに情報を共有させてもらって、検討委員会で協議いただきたいと思っている。

委員 : 自分が平成26年の在り方検討委員会の時に市からもらった資料には、「耐震補強により耐震性の確保が可能」となると書かれていた。これは嘘だったということか。やはり報告書には委員会で出た意見を並べないといけない。これは駄目、これも駄目、これだけ大丈夫というのではいけない。委員長も言っていたとおり土俵に上げないといけない。市の押し付け、事務局の押し付けで報告書ができるのでは、市民の意見を聞いたことにならない。土俵に上がらないまま進んで、議会に上がって、それで行ってしまうのでは、このあり方検討委員会の意味、存在意義がおかしくなるというのが私の意見である。

委員長 : 今、事務局としての意見があると思うので、例えば既存の文化会館を何とかできないかという意見も上がったけれども、やはりこういった状況があつて市としては厳しいと判断したなど、そういう経緯をしっかりと書きながら、最終的にはこういう議論としてまとまると示せばいいかと思う。そして、皆さんすごく時間をかけて、熱い思いも持って発言しているのだから、それはきちんと載せながら、そういう議論も含めて最後はこうなったというように報告書に載せられるといいと思う。次の第6回には、今回の協議を踏まえて、私と事務局で報告書案を作成し、それによりこの表現ならいいだろうというところでまとめていけるといいと思う。

その他

事務局 : 第6回の委員会については、年末ごろに調整させていただきたいので後日連絡する。

#### 4 閉会

副委員長：自分は文化会館のあり方検討に関わって11年目になった。皆さんと基本的に同じだと思うが、大野が好きである。皆さんも何とかまとめたいという気持ちで、この会議に臨んできていただいていると思う。非常に難しい問題だが、最終的に答申ができるように、そして議会でもこの答申を携えていると判断するということを知っているから、我々の答申が非常に重みがあるというようなことを感じている。そのことも考えながら、第6回に臨んでいきたいと思っている。